

チヨン、チヨン、チヨン、と門の外の方へ逃げ出しました。

お母様は雀をおつかけていらつしやいました。

雀は低い所を飛んだり、地面の上をチヨン、チヨン、歩いたりして、段々みみちやんのおつこつてゐる穴の方へいきました。お母様は、

「雀や、待つとくれよ、一寸待つとくれよ。」

と言ひながら、雀のあとを追つて野原の中へ走つていらつしやいました。其の中に、

「あーん、あーん。」

と言ふみみちやんの泣聲がお母様のお耳にはいりました。

「まあ、みみちやんぢやないかへ、どうしたの、どうしたの。」

お母様はびつくりして、みみちやんの泣聲のする方へとんでいらつしやつて、みみちやんを穴から出して下さいました。

感じたるまなまど

大阪市露天幼稚園 松川ヨネ

(1)、子供よりも着物の方が大事

それはくお天氣のよい秋日和の日であります

た。私は年少組の幼児二十名ばかりを連れて天王寺公園へ遊びにまゐりました。ここには子供のた

めに滑り臺もあればブランコもあり、お砂場もあれば手洗ひ場もあるといふ風で誠に好都合の遊び場所でございます。

子供達はあたたかい太陽を身に一ぱい浴びながら面白く愉快に滑りごっこやブランコ遊びやお砂いぢり等をして一生懸命に遊んでゐました。

私はその傍で子供等と一緒に遊びながらも子供達の遊んで居る様を静かに見守つておりました。

すると此の時恰度公園の東手の入口からドヤドヤドヤツとこちらの方へ向つてはいつて来た八九人の、男女連れの一團がありました。やがてこの人達が私達の遊んでゐる前までまゐりますと、一番先頭になつて歩いてゐた四十格好の男の人がここで立ち止りまして、連れの人達をふりかへり見ながら、私の顔と幼児等の滑りつこをしてゐる様とを妙なやな眼つきでギユウと強くにらむやうにして見ながら、誰に言ふともなくあたりの人達

にきこえよがしに（無論私にも）大きな聲で、

「まあ！あれ見て見いな、あれ見て見、えー、あれ、あんなことをして、まあ！何と着物がいたむやないか、えー、着物が、あんなことをしては着物がたまつたもんやないえー、まあ！あの遊びを」と、

しきりに口を酸っぱくして言つておりました。

するとその中の一人の女の人が（五十格好の人）「うちの子供の行つてゐる學校にかてあんな滑り臺があつて、多勢の子供が皆あれに上つて滑つてまつせ」と

きわめて平氣に別に氣にもとめぬらしい口振りで無頓着に答へてゐました。

然しその男の人にとつては、さうした反應のない答にはどうして／＼満足することが出来るでせうか、なほもその人はおなじ事を繰り返しかへしく言ひ／＼しながら私の顔と幼児等の方とをかわる

くくに見くらべてみました。

然し幸ひなことには連れの他の人達は、誰もその言葉に耳をかす人もなく、又言はふとする人もありませんでしたから、その人は仕方なく不精無精に一足々々あるき出しました。然しやつぱり氣になるらしく、なほも後をふりかへりくしなからとうく行きすぎてしまひました。

私はホツと一息いれました。そして

「お、世間にはまだあんな人がある、着物の大事さを知つて、眞に子供を育てるといふことの貴さを、知らない人がある」と、強く感じさせられました。と、同時に又いよく深く自分の責任の重且つ大なる事を考へさせられました。

(2) 幼稚園の先生は中々お骨折りであるある日久振りに全幼児打ち連れ立つて(幼児八十名に對して保姆四名) 四天王寺へ遊びに出掛けました。(平素は組本位に方々へ遊びにまわりま

す)

この時一番先頭の大きな男兒二名が玩具や運動具やその他色々のものゝはいつた、大きな乳母車を押しながら或は坂道を、或は細道を、力一ぱい出して額には汗をニヂマセながら押してまゐりました。そしてその後からつづいてまゐります幼兒等も皆めいよく、靴や(鳩や龜に與へる餌がはいつてゐます) 水筒を肩にかけたり、ゴザをかつ

いんだり等して行きました(無論保姆も共に)すると道行く人達は皆笑顔を持つて、私達を迎へたりふりかへつたり見送つたり等して下さいました。

かうしてやがて四天王寺にまゐりますと(集合所から約四町) 私達は先づ廣々とした静かな場所で、一休みをして深呼吸を十分に致しました。それから聖徳太子様をお祭りしてあるお堂にまゐつたり、五重の塔やその他大昔からの古い建物等を

觀察したり等して、廣い境内を一巡し終つてから自由遊びに時をうつしました。

すると鳩や龜に餌のやりたい幼児等は一目散にその方へ駆つて行つてしきりに彼等に餌を與へて喜んでゐますし又こなたでは木の下にゴザを敷敷き並べてその上でお人形遊びや飯事遊び等をしてゐるものもありました。又フットボールやテニス遊びに熱心な子供達は一生懸命をそれに没頭して中々容易には止めませんでした。

保姆はそれ／＼に手わけをして彼等の遊びを看護しつゝ幼児等と共に楽しく遊んでゐました。

するとこの時誰かが「先生、はしりごつこを致しませう」と言ひ出した者がありましたから、私は早速走りたい者だけを集めて、徒歩競争や旗取りや其他色々の競技をさせておりました。

この時ここを通りあわされた人達は、大抵こいで一寸足をふみとどめて、幼児等の、遊び様をふ

りかへり見ながら「ホ、ホ、ホ、まあかわいらしいこと、幼稚園の子供達は、全く元氣でかわいらしいですね」

「え、ほんとうに無邪氣でかわゆらしいございますのね」まあ、かうして日々先生に御厄介になつて、かうして遊ばせていたゞいて、ほんとうに結構でございますのね」

「全くでございますよ、幼稚園の先生は中々お骨折りでございますね」と、うわさとり／＼に、いづれも皆感謝の心持ちをもつて私達の遊びを見てゐて下さいました。

私はこの時「お、さうだ、私達はもつと眞剣に幼児等と共に生活して、彼等に十分の満足を與へなければならぬと、ひとりひそかに強く自分の心の胸にむち打ちました。

(3) 私達の爲すべき事はまだ／＼ある、

私の幼稚園では月に一回位は幼児を連れて、御

藏跡町の小公園へ（集合所から約四丁）遊びに出掛る事がございます。

ここへ私達が遊びに参りますと恰度ここへ自分の子供や孫等を連れて遊びに來せてゐるお母様方やお祖母様方から、「これ、どこの幼稚園でございますか」「この邊にこんな幼稚園があるのですか」「私方にも子供がありますのでどこか近くの幼稚園へいれたいと思つてゐるのでございますがややくこの部内には幼稚園がございませんので、實は困つてゐるのでございます」「うちの子供も一つお世話願ふわけには參らないでございませうか」等と、かうした事を私達はたび／＼聞かされるのでございます。

そのたび毎に私は「おゝ最もなことである」と深く同情せずにはゐられないのでございます。そして何とかしてかうした人々の希望を満してあげたい、何とかよい方法がないものかしらと、色々

心をなやまさされるのでございます。そして私はいつも次のやうなことを絶えず考へさせられるのでございますが。

それは

一、巨額の費用をかけて大きな立派な公立の幼稚園を設置していただくのも結構ではあるが然しその數が少ないために多くの人達に満足を與へることが出來ないならばむしろそれよりは小さな幼稚園でよいから、餘り經費をかけないやうにして簡單にその町その部内で幼稚園をこしらへるといふ風にしてそして總ての人々に平等に満足を與へるやうにしてはどうかしら。

二、もしさういふ事が不可能な事ならば、せめても巡回幼稚園といふ風なものでもこしらへて、幼稚園のない所の子供達に満足を與へるやうにしてはいかゞ？

三、人さへあれば（幼兒と保姆）教育といふもの

はこの場所でも行ひ得られるものであるから市は簡單に保姆を必要な場所に派遣するやうにして、そこへ集つて来る子供達を、露天式で保育するやうな方法を、試みてはいかゞ？

四、市の周圍部や密集地帯には數多の大切な子供等が、狭い不潔な場所で、いやな遊びを平氣で終

日して遊んでゐる、あの子供達を何とかしなければならぬ。

五、私達の爲すべき仕事はまだくたくさんあると、かう考へさせられるたび毎に私はどうしてもこのままぢつとはしてゐられない心持ちになるのでございます。

大正十一年死亡者年齢別表を見ると千分中

一歳	六三・八	二歳	三三・六	三歳	一八・五
四歳	一一・九	五歳	—九歳	二七・一	

なるを見ても幼児の死亡率の大なることが分る。